

第2章 学校教育の現状と課題

1 学校教育を取り巻く社会情勢

これからの学校教育の在り方を考える上では、子どもや学校を取り巻く社会情勢と、それに伴って必要となる対応を的確にとらえておく必要があります。

〔国際化の進展〕

人、物、情報、資本などが国境を越えて移動する国際化が進展し、様々な国の人々と接する機会が増えるとともに、国際競争が一層激しくなっています。このような社会では、自国文化の理解はもとより、異なる文化を理解し尊重する共生の精神や、国際社会に通用する創造性やコミュニケーション力などが求められています。

〔高度情報化の進展〕

インターネット、携帯電話等の情報技術の発達と普及により、高度情報化が急激に進んでいます。このような社会では、必要な情報を適切に選択したり活用したりできる力や、情報モラルを身に付けていくことが求められています。

〔少子・高齢社会の到来〕

少子化が進んでいる中で、集団生活の体験が不十分な子どもの増加や、親の子育て経験の不足などが懸念されます。このような状況の中、子どもに社会性を育てることや、家庭・地域の教育力を高めることが求められています。また、高齢社会を迎え、互いに支え合う社会を築いていく必要が高まっています。

〔科学技術の発展〕

科学技術の発展に伴い、生産の過程や操作が自動化されるなど便利さが追求されています。このような状況の中、ものづくりへの関心を高め、創造力を伸ばすとともに、生産や使用の是非を適切に判断する上で必要となる倫理観などを高めることが一層大切になっています。

〔環境問題への関心の高まり〕

地球の温暖化などの環境問題は、今後一層深刻化すると考えられ、人類が抱える極めて大きな課題として関心が高まっています。このことについては、「自然」との共生について考え、自ら環境の保全に努めようとする姿勢が求められています。

〔価値観の多様化〕

価値観の多様化、個性化が進む中で、従来の「社会の常識」が通用しなくなり、個人主義のはき違えや、社会環境の悪化などの影響から、規範意識の低下が指摘されています。このような状況の中、社会生活を営む上で最低限身に付けるべきものは何かが問われています。

2 国の教育政策の動向

〔「我が国の教育の現状と課題」について〕

平成15年3月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方」においては、教育の現状と課題を以下のように捉えています。

- ・ 教育は危機的な状況に直面。青少年が夢を持ちにくく、規範意識や道徳心、自律心が低下。いじめ、不登校、中途退学、学級崩壊が依然として深刻。青少年の凶悪犯罪が増加。家庭や地域の教育力が不十分で、家族や友人への愛情を育み、豊かな人間関係を築くことが困難な状況。

初等中等教育段階から高等教育段階まで学ぶ意欲が低下。初等中等教育における「確かな学力」の育成と、大学・大学院における基礎学力、柔軟な思考力・創造力を有する人材の育成、教育研究を通じた社会貢献が課題。

- ・ 直面する危機の打破、新しい時代にふさわしい教育を実現するため、教育の在り方の根本までさかのぼり、普遍的な理念は大切にしつつ、今後重視すべき理念の明確化が必要。その新しい基盤に立ち、各教育分野にわたる改革が必要。

〔「我が国の21世紀の教育の方向性」について〕

さらに、同答申においては、「21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成」を目指すため、これからの教育は以下の目標の実現に取り組むことが必要であるとしています。

- ・ 自己実現を目指す自立した人間の育成
- ・ 豊かな心と健やかな体を備えた人間の育成
- ・ 知の世紀をリードする創造性に富んだ人間の育成
- ・ 新しい公共を創造し、21世紀の国家・社会の形成に主体的に参画する日本人の育成
- ・ 日本の伝統・文化を基盤として国際社会を生きる教養ある日本人の育成

文部科学省では、平成14年4月の学習指導要領完全実施以降、学習指導要領の一部改正を行うとともに、中央教育審議会において数々の答申等を行っています。今後の学校教育の方向性に関連の深いものは、以下のとおりです。

【平成14年4月】 学習指導要領の完全実施

ゆとりの中で特色ある教育を展開し、生きる力を育むことをねらいとし、総合的な学習の時間の新設、授業時数の縮減などを改訂の要点とした学習指導要領を完全実施した。

【平成15年12月】 学習指導要領の一部改正

学習指導要領のねらいの一層の実現のため、学習指導要領の基準性の明確化、総合的な学習の時間の充実、個に応じた指導の充実等について、一部改正した。

【平成16年1月】 中央教育審議会 答申

食に関する指導体制の整備について、学校栄養職員のもつ食に関する専門性に加え、教育に関する資質を身に付けた栄養教諭制度を創設すべきであることなどの答申を行った。

【平成16年3月】 中央教育審議会 答申

今後の学校の管理運営の在り方について、地域が運営に参画する新しいタイプの公立学校運営の在り方、民間活力を活用した公立学校管理運営の包括的委託などの答申を行った。

【平成16年4月】 義務教育費国庫負担制度改革

義務教育費国庫負担制度改革により、教員の配置等について地方の自由度を拡大する「総額裁量制」を導入した。

【平成16年12月】 中央教育審議会 中間報告

特別支援教育を推進する制度の在り方について、特殊学級・通級指導の対象の児童生徒と障害のない児童生徒との共同学習促進、小・中学校の通常学級在籍のLD・ADHD・高機能自閉症の児童生徒への適切な指導支援などの中間報告を行った。

【平成17年2月】 中央教育審議会 部会まとめ

学校に権限を与え校長のリーダーシップの下で自主的な学校運営ができるようにすること、教職員の配置に対する校長の権限を更に拡大すること、学校が自らの教育活動について自律的・継続的に改善を行うとともに保護者や地域住民への説明責任を果たす上で学校評価が重要であることなどを報告した。

【平成17年10月】 中央教育審議会 答申

今後、進めていく義務教育の構造改革のポイントとして、義務教育の充実に国家戦略として取り組むこと、市区町村、学校の裁量・自由度を高める分権改革を進めること、学習指導要領、教員養成、財源保障など義務教育の基盤整備と学力調査などの結果の検証は国が責任を負うこと、国庫負担制度については、大事にしつつ地方の裁量を更に広げることなどを答申の中で示した。

3 少年期の課題と学校教育の役割（宮っこ未来ビジョンより）

『宮っこ未来ビジョン』（平成17年9月）においては、「少年期の学び」「少年期の問題点」及び「小・中学校の役割」を以下のようにとらえています。

〔少年期（おおむね6～15歳未満）の学び〕

【夢と希望と自信をはぐくむ】

家族との人間関係から学校・家庭での人間関係へと広がりを見せる時期です。

この時期には、仲間と協力していく手法を習得したり、知的で好奇心旺盛な活動により、試行錯誤しながらも主体的に物事に取り組み自力解決する力を身に付けたりすることで、自分への信頼や自己肯定感を深めることが大切です。

また、自分への信頼や自己肯定感をもち、未来に夢と希望をもって、様々なことに挑戦していく時期でもあります。

〔現在の少年期における主な問題点〕

- ・よりよい人間関係を形成する力が低下しています。
- ・進んで学んだり、活動したりする意欲が低下しています。
- ・我慢する力や粘り強く物事に取り組む姿勢が不足しています。
- ・体力が低下しています。

〔小・中学校の主な役割〕

- ・確かな学力や豊かな人間性、健康・体力などの「生きる力」の育成に努めます。
- ・社会や周囲の人々に配慮した判断力や自律心を身に付けさせます。
- ・奉仕活動などの社会体験を通して、奉仕の精神や職業観・勤労観の育成に努めます。
- ・乳幼児や高齢者との交流により、生命尊重の気持ちをもたせる教育を充実させます。
- ・スポーツに積極的に取り組む姿勢と「食」に関する自己管理能力の育成に努めます。

4 市民の学校教育に関する意識

市民の学校教育に関する意識について、本市が実施した「教育に関する市民意識調査」(平成15年11月)から、次のようなことが明らかになりました。

〔本市の教育行政・学校教育への満足度〕

本市の教育行政に「十分満足」「概ね満足」と回答した市民は、約58%でした。一方、「あまり満足していない」「満足していない」と回答した市民は約39%で、その中の約40%が、満足していない分野として、小・中学校教育をあげています。

〔小・中学校教育で育てて欲しいと考えている能力や態度等〕

市民が小・中学校教育において育てて欲しいと考えているものとして多かったのは、次のようなものでした。

- ・「他を思いやる心」・・・・・・・・・・・・・・・・約14%
- ・「他人と人間関係を築く力」・・・・・・・・・・・・・・・・約13%
- ・「目標に向かって努力する意欲」・・・・・・・・・・・・・・・・約12%
- ・「生きるために必要な基礎的学力」・・・・・・・・・・・・・・・・約9%

〔様々な教育の展開についての評価〕

小・中学校が実施している様々な教育について、「十分している」または「だいたいしている」と回答した市民は、それぞれ以下のような割合でした。

- ・「確かな学力を身に付ける教育」・・・・・・・・・・・・・・・・約56%
- ・「規範意識や公共心を育てる教育」・・・・・・・・・・・・・・・・約52%
- ・「家庭や地域と連携した教育」・・・・・・・・・・・・・・・・約48%
- ・「豊かな心を育てる教育」・・・・・・・・・・・・・・・・約42%
- ・「子ども一人一人の特性や能力を伸ばす教育」・・・・・・・・・・・・・・・・約20%

〔特色ある学校づくりに関する意識〕

「小・中学校の特色ある学校づくりを一層推進すべきか」の問いについて、市民の75%が「おおいに推進すべき」または「どちらかというと推進すべき」と回答しました。

5 本市の小・中学校の現状

本市においては、これまで「宇都宮市学校教育の重点」を策定し、学校教育の目標、重点目標及び努力点を示し、小・中学校の教育の充実を図ってきました。

以下、本市の学校教育の現状について、様々な調査の結果や、児童生徒の実態及び学校の取組状況の分析などを基に概要を述べていきます。(詳細については、「資料編」を参照ください。)

〔児童生徒の主な現状〕

- ・ 学習内容定着度調査では基礎的な内容の定着が十分でない児童生徒が見られるが、平成16年度と前年度の比較では、80%以上の正答率は増加している。(図3参照)
- ・ いじめは減少傾向にあるものの、暴力行為が増加しているなど、児童生徒の問題行動は依然として深刻な状況にある。(図4参照)
- ・ 自らの健康や安全を守るための適切な意思決定や行動ができる能力が十分に身に付いていない。
- ・ 互いの意思や感情を伝え合う力、集団で生活する上で必要な規範意識など、豊かな人間関係を築く力が十分に備わっていない。 など

図3 平成15・16年度学習内容定着度調査の正答率別度数分布(中学校2年生 国語)

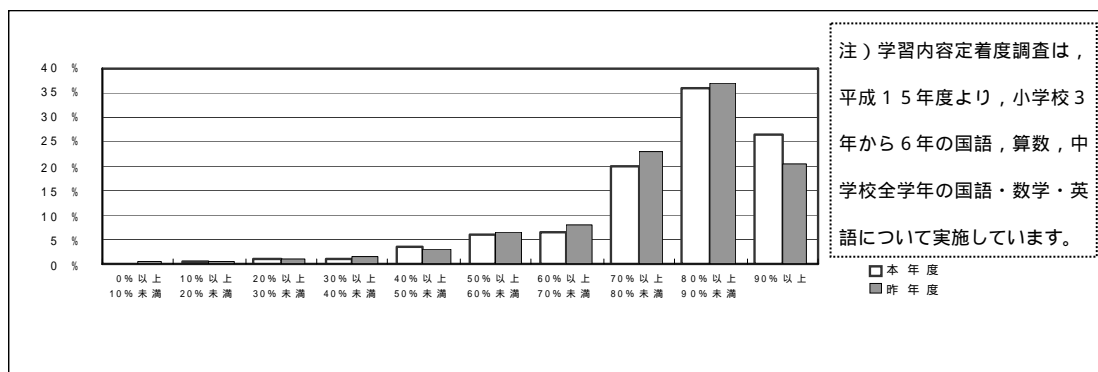
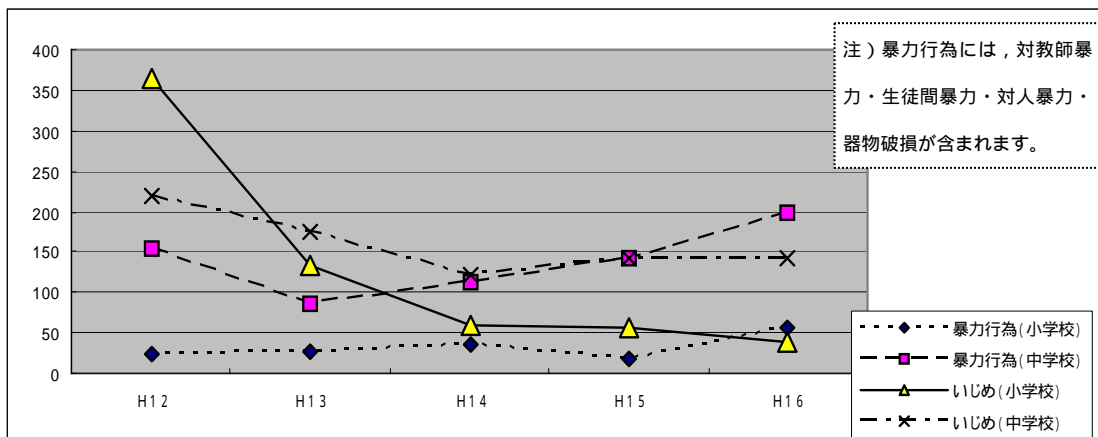


図4 本市小・中学校の最近5年間の暴力行為・いじめの発生件数(件)

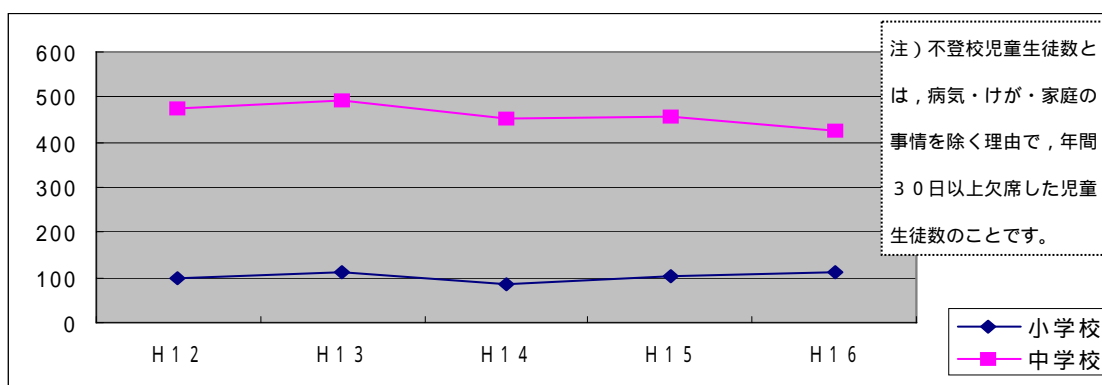


第2章 学校教育の現状と課題

〔指導体制の主な現状〕

- ・ 様々な障害をもつ児童生徒や不登校児童生徒，日本語習得が十分でない外国人児童生徒への対応など，教育的ニーズが多様化している。（図5参照）
- ・ 教職員には，分かりやすい授業を展開できる実践的指導力を高めることや，児童生徒，保護者などとの信頼関係の構築が求められている。
- ・ 教師が多忙であり，児童生徒とゆとりをもって向き合う時間が不足しがちであるとともに，組織的な対応が十分に機能していない。 など

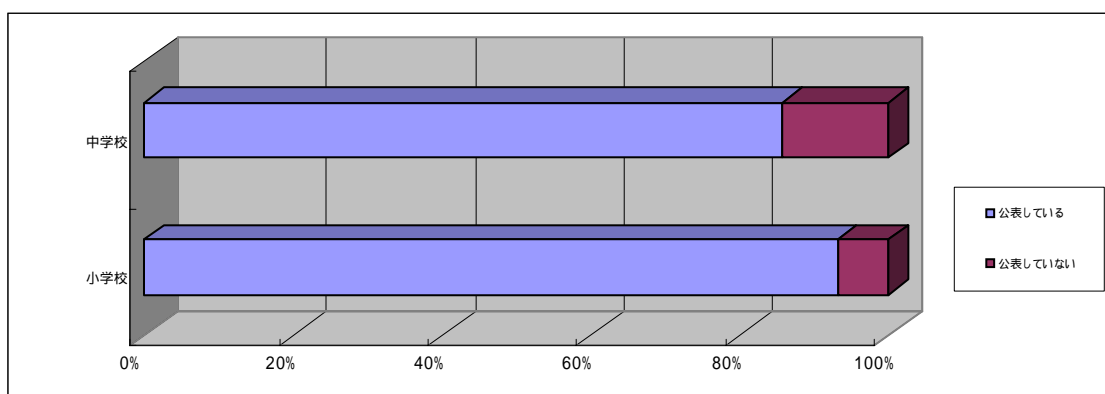
図5 本市小・中学校の最近5年間の不登校児童生徒数（人）



〔教育環境・教育システムの主な現状〕

- ・ 地域人材の協力を得た指導など，地域と連携した教育の展開が推進されている。
- ・ 各学校が特色ある学校づくりを進めているが，取組の方針などに，保護者や地域のニーズを明確に位置付けている学校は少ない。
- ・ 学校の自己評価・外部評価を実施し，結果を公表することなど，学校情報の一層の公開が求められている。（図6参照）
- ・ 児童生徒が安心して学習・生活ができる安全な学校づくりが急務である。
- ・ 本市の実情に応じ，通学区の弾力化，小規模特認校制度などに取り組んでいる。 など

図6 本市小・中学校の外部評価の公表状況（平成16年度）



6 これからの学校教育の課題

本章で述べてきた「学校教育を取り巻く社会情勢」「国の教育政策の動向」「少年期の課題と学校教育の役割」「市民の学校教育に関する意識」「本市の小・中学校の現状」等を踏まえ、これからの学校教育の在り方を考えていく上での課題を整理すると、以下ようになります。

(1) 新たな学校教育を創造する理念の明確化

未来を担う子どもを育むため、新しい時代にふさわしい学校教育の実現を目指す理念や方針の明確化が求められている



課題 新しい時代を生きるために必要な力を身に付けた子どもの育成
時代の要請に応えることのできる学校づくりの推進

(2) 基礎的・基本的な資質・能力を育成する教育の推進

これまででも大切にされ、これからの時代においても必要とされる、生きていく上で基礎・基本となる力を育てる教育の展開が求められている



課題 確かな学力、健康・体力を育む指導の充実
豊かな心を育む道德教育や体験活動の充実
社会の変化に対応する力を育む教育活動の展開

(3) 多様化する教育ニーズへの対応と教職員の資質の向上

様々な教育ニーズへの適切な対応とともに、教職員の使命感や専門性等を高め信頼を得ることが求められている



課題 特別支援教育などの指導体制の整備
教職員の人材育成システムの構築

(4) 学校運営の改善と教育環境の整備充実

今後の学校教育の方向性を見据えた学校運営改善のための積極的な取組、教育環境の整備・充実、学校教育システムの再構築が求められている



課題 自主・自律し、地域と連携した学校づくりの推進
適切な人的な配置と施設・設備の整備・充実
新たな学校教育システムの実現